

タイ人日本語学習者の「ノダ」文の使用実態 —日本語教材・多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS) を中心に—

ムアンモンプラサート・パイロート

東京学芸大学大学院教育学研究科

pairoge1991@gmail.com

1. はじめに

文末表現が豊かな日本語には、学習者にとって使い分けが分かりにくい表現がいくつか存在している。日本語の日常会話でよく使用されている「ノダ」文¹もその一つである。塚原 (1998) により、日本語母語話者が一般の会話では「ノダ」文の使用頻度が約 3 割であると多く見られるため、「ノダ」文が日本語会話における重要な表現の一つだと言えるだろう。また、これまで日本語母語話者や中国人・韓国人の学習者の「ノダ」文の研究が非常に盛んでいるが、タイ人日本語母語話者向けの「ノダ」文の研究は坪根 (2012)、坪根 (2013) 以外は見当たらなかった。

本研究は大学院の修士論文の一部として現在タイで扱われている日本語教材における「ノダ」文の使用状況を明らかにし、また、多言語母語の日本語学習者横断コーパス (以下 I-JAS) を使用し、タイ人日本語学習者の「ノダ」文の使用も考察していきたい。

2. 先行研究

これまでの「ノダ」文の研究の主な流れに関しては、まず石黒 (2003) をもとに述べる。石黒により、1990 年頃までの先行研究の主流としては、「ノダ」の多様な用法をまとめたところから (石田 (1988) 等)、ある程度の見解が得られたものであるという。また、「ノダ」は「の」として客体的に捉えられた事態を「だ」をつけて発話時の判断とし、二重性 (説明、言い換え、因果関係、背景の事情) をもった表現であるとしている。次いで、新観点として取り上げられたのは、野田 (1997) の「スコープ」と「ムード」、名嶋 (2007) の関連性理論などでは、「ノダ」文の研究は盛んに行われた研究のテーマの一つである。

本研究ではタイ人日本語学習者の「ノダ」文に関して考察するにあたって、まず「ノダ」文の発話者の「意図」を塚原 (1998)、メイナード (2002)、グループジャマシー (2012) を参考にし、以下の通りまとめてみた。それは「聞き手の働きかけ要求」を情報要求、説教、命令に、及び「聞き手の働きかけ不要」を情報追加、決意、発見、推量、後悔、提示に分類することができる。

タイ人日本語学習者の「ノダ」文の使用と学習に関しては坪根 (2013) では、タイ人日本語学習者の縦断型の研究を行い、留学経験 (一年) からの影響は日本語能力の達成度にあまりなく、それにより、多様な「ノダ」文の用法が身につけられるが、使用頻度や、正解率とは関係が薄い

と指摘された。

3. 研究方法

3.1 日本語の教材分析 本研究で対象とした日本語の教材は以下の通りである。

(1) 田中他 (2015) 『みんなの日本語 3 (タイ語版)』

初級・中級で主に用いられる教材である。「ノダ」文の項目は第 26 課で取り上げられる。第 26 課で学習した以降、頻繁に他の文法項目が取り上げられ、第 38 課まで「ノダ」文の出現は合計 334 文、それは情報要求 150 文 (45%)、情報追加 87 文 (26%)、提示 97 文 (29%) で、主な形式は「んです」「んですか」「んですが」である。

(2) ブッサバー他 (2016) 『あきことともだち』 1-6

タイの国際交流基金の日本語教師により、中等教育で扱う教材として作成された教材である。知識だけでなく、日本・タイの文化の対照項目も含む教材で、タイの教育省の基礎教育計画 (2008) により、国立学校への導入教材として進められている。「ノダ」文は第 4 冊 (提示)、第 5 冊 (情報要求、情報追加) が取り上げられ、合計 140 文の中、情報要求 49 文 (35%)、情報追加 48 文 (34%)、提示 43 文 (31%) で、主な形式は「んです」「んですが」「んですか」である。

(3) シラパコーン大学文学部日本語学科：ワンチャイ (2014) 『日本語の基礎知識 3』

国立大学、1982 年に日本語学科が開始された。大学二年生 (初級) 向けの教材として用いられる。主な形式は「んです」「んですか」である。

(4) タマサート大学教養学部日本語学科：ドゥンチャイ (2008) 『初級日本語の文法 2』

国立大学、1997 年に日本語学科が開始された。大学一年生 (初級) 向けの教材として用いられる。主な形式は「のですか」、「のです」である。

各教材で取り上げられた「ノダ」文の項目は表 1 でまとめた。

表 1 タイの日本語教材の取り上げられた「話し手の意図」項目

教材名	聞き手の働きかけ要求			聞き手の働きかけ不要					
	情報要求	説教	命令	情報追加	決意	発見	推量	後悔	提示
A) みんなの日本語 3	○	×	×	○	×	×	×	×	○
B) あきことともだち	○	×	×	○	×	×	×	×	○
C) シラパコーン大学	○	×	×	○	×	×	×	×	×
D) タマサート大学	○	×	×	○	×	×	×	×	×

日本語教材における用例

情報要求：「渡辺さんは時々大阪弁を使いますね。大阪に住んでいたんですか。」 (A, p. 2)

「新しいくつですね。先週の誕生日にもらったんですか。」 (C, p. 41)

情報追加：「きれいな着物を着ていますね。/…ああ、これですか。母にもらったんです。」(C, p. 41)
 「きれいな洋服を着ていますね。どこかへ行くのですか。/…これからパーティーへ行くのです。」
 (D, p. 87)

提示：「エドヤストアへ行きたいんですが、道を教えていただけませんか。」(A, p. 72)
 「パーティーのためにお紙でいろいろな物を作りたいんですが、…」(B, 4 冊, p. 49)

3.2 タイ人日本語学習者の「ノダ」文の使用状況の分析

前述のように、塚原（1998）等では中国人や韓国人の日本語学習者の「ノダ」文の産出頻度に関して調べられたが、タイ人日本語学習者に関する研究は非常に少ない。そのため、本研究では日常会話に近い場面で様々な資格をもつタイ人日本語学習者の「ノダ」文の産出・使用状況を考察するため、現在学習者の談話研究分野で注目されている I-JAS を使用して分析したい。

現在、タイ人日本語学習者の 15 人分（合計 50 人）の会話データが載っている。日本語能力の計測基準として用いられた SPOT テスト²の点数の 62-79 点（平均点数 68.5 点）で、SPOT テストの中級（51-80 点）に入り、JLPT の N2、N3 に相当できる学習者である。

本研究では対象とした学習者は 15 人の中の最高得点（TTH03：79 点）、平均得点（TTH18：69 点）、最低得点（TTH28：62 点）にした。各学習者の資格に関しては以下の通りまとめた。

TTH03：男性（21 歳）、留学経験 1 年、学歴：「言語教育機関 2 年、大学 4 年」

TTH18：女性（21 歳）、留学経験無し、学歴：「高校 3 年、大学 4 年」

TTH28：女性（20 歳）、留学経験無し、学歴：「言語教育機関 1 年、高校 3 年、大学 2 年」

使用教材に関しては、全員『みんなの日本語』を用いて、TTH18 と TTH28 が『あきことともだち』も使用したという。I-JAS の内容に関しては約 30 分位の程度で、学習者の「学習経験、趣味、好み、将来の目的」等様々な日常会話に近いテーマで設定された。各対象者の「ノダ」文の使用状態を表 2 にまとめた。

表 2 I-JAS 対象者の「ノダ」文の使用状況

対象者	時間 (分)	発話数 (回)	「ノダ」文 発話数	「ノダ」 文数	調査者		
					発話数	「ノダ」文発話数	「ノダ」文数
TTH03	32.54	279	56 (20%)	67	279	49 (17.6%)	51
TTH18	31.29	232	<u>0</u>	<u>0</u>	233	27 (11.6%)	27
TTH28	32	189	<u>1 (0.5%)</u>	<u>1</u>	189	32 (17%)	34

用例

①TTH03-I-00130-C（調査者）：あじゃ、今が一番、暑い時期ですか？

TTH03-I-00140-K（学習者）：あの、この（連体詞）前が一番、暑い時期なんです

②TTH03-I-00130-C（調査者）：あじゃ、今が一番、暑い時期ですか？

TTH03-I-00140-K (学習者) : あの、この (連体詞) 前が一番、暑い時期なんです

③ (子供頃の痩せた経験に関して) TTH28-I-02060-K (学習者) : あ、小さい頃はあまり食べない、食べなかった (うんうんうんうん) あの、おしゃべりはないんだと思います

4. 考察・今後の課題

本研究で対象としたタイの日本語教材の分析では、一般教材と高等教育機関の自作教材の項目はあまり違いが見られなく、主な項目は「情報要求」、「情報追加」、「提示」である。「説教・命令・決意・後悔・発見・推量」はなぜ導入されていないのか、その理由は明確にする必要がある。学習されていない「話し手の意図」は学習者が自分で日常会話において身に着けることしかできないが、長い間海外で学習し続け、日本語母語話者との会話が簡単に取りれない環境において、どう学習すればいいのか、また、「ノダ」文の教材をどのように改善すればいいのかについても明らかにすべきだと思われる。

また、坪根 (2013) で指摘されたことを異なり、留学経験をもつ人は「ノダ」文等の文末形式の使用頻度に明確に影響が与えられると考えられる。次に、SPOT 点数が少なくなく、合計 7 年タイで日本語学習経験をもつ TTH18 は発話数からみれば、TTH03 と比べ、あまり差が見られない状態で、『みんなの日本語』と『あきことともだち』の教材を学習したものの、「情報追加」「情報要求」「提示」などの出産レベルまで達成できていないことについても調べる必要がある。最後に、日本語母語話者の「ノダ」文の使用頻度が「ノダ」文があまり使用しない外国人と会話する際、「ノダ」文の使用頻度が低くなる傾向がみられる。

注 1) 本研究で「ノダ」文は「んだ、の (か)、んだろう」等の「ノダ」文末形式を含む。

2) SPOT テストは筑波大学留学生センターが作成したウェブ上の日本語の運用能力を測るテストである。([<http://ttbj.jp/index.html>])

5. 参考文献

石黒圭 (2003) 『『のだ』の中核的機能と派生的機能』一橋大学留学生センター紀要、6 : 3-26/ グループ・ジャマシイ (2012) 『日本語文型辞典タイ語版』くろしお出版/ 迫田久美子他 (2017) 「学習者コーパスの構築に関するケーススタディー調査計画のプロセスから学ぶ」『2017 年度日本語教育学会予稿集』326-331/ 塚原美紀 (1998) 「日本語学習者の会話における『ンダ/ンデス』の使用実態に関する考察」『筑波応用言語学研究号 5』71-84/ 坪根由香里 (2013) 「言語環境とタイ人日本語学習者の『のだ』の使用に関する考察」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要第 10 号』/ 泉子・K・メイナード (2005) 『日本語教育の現場で使える談話表現ハンドブック』くろしお出版/ 参考資料 : 多言語母語の日本語学習者横断コーパス : I-JAS